

市川市市民活動団体補助決定事業実績報告書

平成29年4月6日

市川市長

団体名 まちづくり家づくりCafé Ichikawa
(団体番号 ~~59~~ 32)
代表者名 高木彬夫
所在地 市川市若宮1-16-2

平成28年8月12日付けで交付決定のあった市川市市民活動団体事業補助金について、下記のとおり補助決定事業を完了したので、報告します。

記

報告事項

(1) 補助決定事業費総額	287,046. 円
(2) 補助対象経費総額	272,872. 円
(3) 補助金交付決定額	158,785. 円
(4) 補助金交付概算払額	158,785. 円



(5) 実施報告-1

補助決定事業の名称	クロマツのある風景市川 (まち歩き+マップ作成ワークショップ)
補助決定事業の実施内容 (計画に照らした事業の実施結果を記載してください。)	<p>計画どおりに出来たこと、出来なかったこと等を具体的に記載してください。</p> <p>(1) 菅野・平田・新田エリアおよび市川・真間・真間山エリアのまち歩き+マップ作成ワークショップ事業 実施時期 2016/04/10 実施場所 菅野公民館</p> <p>(2) 八幡・富貴島・真間川エリアおよび中山法華経寺周辺エリアのまち歩き+マップ作成ワークショップ事業 実施時期 05/29、06/26、07/10、07/24、09/25、11/05、12/03 実施場所 八幡・富貴島・真間川エリアおよび中山法華経寺周辺エリアの公道および寺社境内、菅野公民館</p> <p>(3) 江戸川沿い・国府台・国分エリアのまち歩き+マップ作成ワークショップ事業 実施時期 11/26、2017/01/14、02/25、03/11 実施場所 江戸川沿い・国府台・国分エリアの公道、公園および寺社境内、菅野公民館、i-linkルーム</p> <p>のべ参加人数 112名</p>
広報の実施状況 (市民の参加を呼び掛けるために実施した広報等の実施状況を記載してください。)	<p>一般新聞、ミニコミ誌、フリーペーパー等への記事・案内掲載</p> <p>メールによる告知</p> <p>チラシによる告知</p>
補助決定事業の成果 (課題をどのように解決することができたのかを記載してください。)	<p>補助決定事業を実施したことによりどのようなメリットがあったのか、地域がどのように変わったのか等得ることができた成果を具体的に記載してください。</p> <p>昨年度から継続して取り組んでいる事業であるが、(1)および(2)の事業については、「いちかわ まち歩き ガイドマップ 第一集」「いちかわ まち歩き ガイドマップ 第二集」という成果物としてまとめることができた。市川を紹介するマップはこれまでに、いくつも発行されているが、いずれもいわゆる名所・旧跡などを紹介するものにとどまっいて、まち並みそのものの魅力を伝え、散策に活用できるガイドマップは、我々の成果物が初めての試みである。これまでの活動の成果を「まち歩きマップ」に結実させた業績が評価され、第十回市川市景観賞を受賞するという大きな成果を得た。</p>
補助決定事業を実施したことにより把握した課題と改善策 (今後の方向性)	<p>補助決定事業を実施したことによって、どのような課題を把握し、及び当該課題を解決するための改善策をどのように講じたのか記載してください。</p> <p>今年度、「いちかわ まち歩き ガイドマップ 第一集」および「いちかわまち歩き ガイドマップ 第二集」としてまとめた成果物は、市民に普及するため、八幡市民談話室ロビー、中央図書館、市川南口図書館、清華園等に試験的に置き、配布したところ市民より高い評価を得た。来年度は新しい効果的な普及を事業の重要な柱と位置づけ達成を図りたい。</p> <p>このガイドマップは、市川の街並み景観の魅力を広く市民に対して啓蒙するための媒体で、いわばテキストに相当するものである。</p> <p>現行の補助金の制度では印刷費の上限および比率が決められているが、マップは活動の広告宣伝用のもではなく、私たちの啓蒙活動に欠くことのできない教材、テキストであるから一般の印刷費としてではなく「教材発行費」といった新しい枠組みによって取り扱われることを強く望むものである。</p> <p>また、普及を拡大するために発生する費用を、私たち会員の会費と補助金制度に依存することには無理があり、新しい財源の確保が重要な課題になる。普及の拡大例として、市内中高生対象にした教材、来日外国人に対する情報発信などが考えられるが、事業の拡大は市川市との協働が必要になる。</p>

(5) 実施報告-2

補助決定事業の名称	クロマツのある風景市川 (展示発表)
補助決定事業の実施内容 (計画に照らした事業の実施結果を記載してください。)	<p>計画どおりに出来たこと、出来なかったこと等を具体的に記載してください。</p> <p>(1)市川市市川駅南口図書館・えきなんギャラリーにおける「マツ・みち・まち 市川のくまち歩きガイドブック」の出来るまで 写真と資料展」 実施時期 2016/06/01～06/29 実施場所 市川駅南口図書館・えきなんギャラリー</p> <p>(2)市環境政策課によるいちかわ環境フェアに出展(「みどりが大事まち当てクイズ」などの展示企画) 実施時期 2016/06/05 実施場所 ニッケコルトンプラザ(コルトンホール会場)</p> <p>(3)市環境政策課によるいちかわエコギャラリーに出展 実施時期 2017/01/12～01/25 実施場所 メディアパーク市川1Fエントランス広場</p> <p>参加者数:図書館ではカウントは難しいが、多数の来館者が興味をもって見ている。(1)については市川駅南口図書館の2016年6月期の来場者は35,000人なのでかなりの広報効果があると考えられる。(2)(3)については、市環境政策課による来場者数集計では環境フェア15,000人、エコギャラリー200人である。</p>
広報の実施状況 (市民の参加を呼び掛けるために実施した広報等の実施状況を記載してください。)	<p>(1)については市川駅南口図書館による告知、(2)(3)については市環境政策課による告知 その他、当会によるメールによる告知、チラシによる告知</p>
補助決定事業の成果 (課題をどのように解決することができたのかを記載してください。)	<p>補助決定事業を実施したことによりどのようなメリットがあったのか、地域がどのように変わったのか等得ることができた成果を具体的に記載してください。</p> <p>市川駅南口図書館のえきなんギャラリーは、図書館利用者の目に触れる特徴的なレイアウトがされていて、その展示効果が大きい。市川駅南口図書館における展示は過去にも行っており、その展示を見て、「まち歩き+マップ作成ワークショップ」に参加したり、当会の新規会員になった方々がいるなど、着実な成果が見られている。そのため、今年度の企画では、「くまち歩きガイドブック」の出来るまでをテーマとし、まち歩きのフィールドワークからガイドマップの編集作業に至る過程を紹介する展示を行い、鑑賞者に活動への参加意欲をもってもらうよう工夫を凝らした。その結果、これまでと同様の効果が得られている。</p> <p>(2)(3)の市環境政策課によるイベントには毎年参加している。とくに(2)の環境フェアは子どもたちの参加が多いイベントであることから、次代を担う子どもたちに景観・まちづくりに関心をもってもらううえで、重要な意義を有している。</p>
補助決定事業を実施したことにより把握した課題と改善策 (今後の方向性)	<p>補助決定事業を実施したことによって、どのような課題を把握し、及び当該課題を解決するための改善策をどのように講じたのか記載してください。</p> <p>環境フェアではくみどりが大事まち当てクイズの展示企画を行ったが、ややマンアックすぎたきらいがある。次年度は、小学校の低学年以下の子どもたちにも取っつきやすい企画内容を工夫する必要がある。 エコギャラリーは、与えられたパネルへの展示オンリーなので、展示物の充実にも努める必要がある。 市川駅南口図書館での展示は効果が大いなので、次年度も新しい企画で展示発表ができるよう、働きかけていきたい。</p>

(5) 実施報告-3

<p>補助決定事業の名称</p>	<p>クロマツのある風景市川（まちづくりCafeシリーズ・シンポジウム）</p>
<p>補助決定事業の実施内容 (計画に照らした事業の実施結果を記載してください。)</p>	<p>計画どおりに出来たこと、出来なかったこと等を具体的に記載してください。 今年度は、「いちかわ まち歩き ガイドマップ」の完成に踏まえ、(A)これを活用してまち歩きを実施し、まち並み景観の価値・魅力を再発見するフィールドワーク[(1)]と、(B)景観・まちづくりの課題について学ぶ勉強会[(2)(3)]とを行った。</p> <p>(1)ガイドマップを活用したまち歩き 案内と解説者:高野史郎<元市川市自然環境政策専門員> 実施時期 2016/10/10 実施場所 市川・真間・真間山エリアの公道および寺社境内 参加人数:27名</p> <p>(2)「クロマツ並木を都市緑化の手段に」講演とフォーラム 講師:山崎誠子<日本大学短期大学部准教授> 実施時期 2017/01/22 実施場所 市川市中央公民館 参加人数:28名</p> <p>(3)「世界のまち並み I (クオアチアとネパール)スライドと講演」 講師:栗原宏光<建築写真家> 実施時期 2017/03/12 実施場所 i-linkルーム 参加人数:31名</p>
<p>広報の実施状況 (市民の参加を呼び掛けるために実施した広報等の実施状況を記載してください。)</p>	<p>一般新聞、ミニコミ誌、フリーペーパー等への記事・案内掲載 メールによる告知 チラシによる告知</p>
<p>補助決定事業の成果 (課題をどのように解決することができたのかを記載してください。)</p>	<p>補助決定事業を実施したことによりどのようなメリットがあったのか、地域がどのように変わったのか等得ることができた成果を具体的に記載してください。</p> <p>(1)について ガイドマップの配布普及のみならず、これを活用したフィールドワークを呼びかけ実施することによって、景観・まちづくり活動への参加を促す成果が得られた。</p> <p>(2)について 近年、市の木であるクロマツが、相続等による土地の細分化などによって次第に減少しつつある。道路の街路樹帯など公有地における新たな植樹によってそれを補い、市川ならではの景観を将来にわたって維持していくうえでの実践的な課題について、学ぶことができた。</p> <p>(3)について 日本とは異なった諸外国におけるまち並み景観やまちづくりの形成過程と比較することによって、市川の景観・まちづくりが抱える課題を考えるきっかけを得ることができた。</p>
<p>補助決定事業を実施したことにより把握した課題と改善策 (今後の方向性)</p>	<p>補助決定事業を実施したことによって、どのような課題を把握し、及び当該課題を解決するための改善策をどのように講じたのか記載してください。</p> <p>(1)まち歩き+Map作成ワークショップ事業は、エリアを変えて次年度も継続して取り組む計画であることから、ガイドマップを活用したまち歩きフィールドワークもまた継続して定期的に取り組んでいく予定である。</p> <p>(2)都市緑化、歴史的建築物の保存、建築の景観的要素、道路、空き屋間等々、市川市においても景観・まちづくり上の課題が山積している。勉強会を通じて現状認識・知見を高め、市民側から政策提言をしていけるような力量を獲得することを目指し、次年度の勉強会テーマ設定を考えていく。</p> <p>(3)については今後、海外事例に限らずさまざまな街並み景観を取り上げる予定である。</p> <p>以上の活動のすべてが、「景観まちづくり」について、わかりやすい方法で市民の関心を高めることを目的としている。これら講習会などの催しでは、新鮮な話題と講師の選定を心掛けているが、講師日程、会場の調整と予告の時間の確保が共通した課題である。</p>

市川市市民活動団体事業補助金収支決算書

補助決定事業の名称：クロマツのある風景市川

1【収 入】

項 目	金 額	説 明（積算等）
事業収入	23,900.00	まちづくりCafé等参加費（予定金額に達せず）
寄附金収入	78,710.00	
補助金収入	158,785.00	
その他 （助成金等）	0	
会費充当	48,000.00	団体の本会計より充当
返戻し金	-22,349.00	
合 計	287,046.00	

2【支 出】

項 目	支出金額	うち補助対象金額	説 明（積算等）
報償費	110,000.00	110,000.00	マップデザイン製作費@40,000×2、外部講師等の招へい3名@10,000
交通費	52,200.00	52,200.00	公共交通 電車賃、バス賃 明細有り 駐車料
消耗品費	65,272.00	55,000.00	貼パネ、プリンターインク、吹付のり、用紙など
印刷製本費	47,650.00	47,650.00	マップI・II印刷代
通信運搬費	2,642.00	2,642.00	切手、スマートレターなど
保険料	560	560	まちづくりCafé・まち歩き団体保険
使用料及び賃借料	5,220.00	4,820.00	公民館、I-Link会議室、等利用料
原材料費	0	0	
食糧費	3,502.00		
合 計	287,046.00	272,872.00	

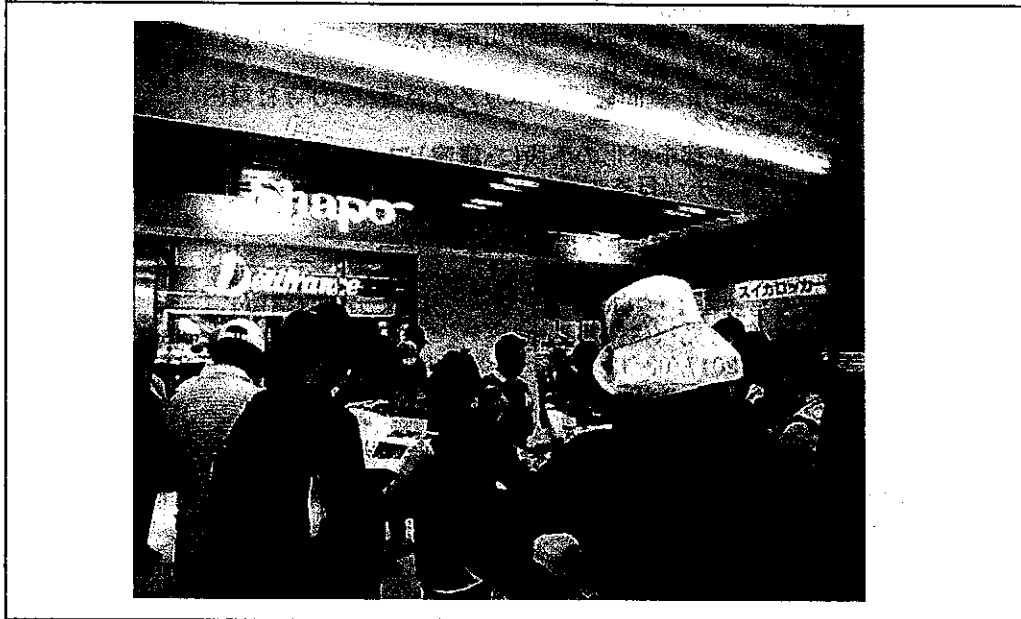
※ 領収書（原本）を添付してください。

(6) その他

※ 補助決定事業に係る活動の様子が分かる写真を2枚添付してください。

タイトル : フィールドワーク集合地点の市川駅コンコースで、案内人の高野氏よりスケジュールの説明を受ける参加者たち

撮影年月日: 2016年10月10日



タイトル : 「世界のまち並み I スライドと講演」の様子

撮影年月日: 2017年3月12日

